

報道関係各位

世界の研究不正による経済的損失はおよそ3兆円\*。  
公正な研究による日本の研究力と国際競争力の向上の実現に向け

## 研究不正が起きにくい環境づくりを考える勉強会 「責任ある研究活動とは」を開催

京都薬科大学（京都市山科区）は、世界的な学術公正の専門家である南オーストラリア大学 Tracey Bretag 博士を招き、研究不正が起りにくい研究環境づくりを考える勉強会「責任ある研究活動とは」を、2019年10月1日（火）17時から京都大学で開催します。

信頼できる研究成果を得るためには、研究者の誠実な姿勢が求められますが、これを研究公正といえます。この問題についてはこれまでは人文系の研究者が中心となって議論されてきましたが、実効的な研究公正の推進を実現するためには、文理両方の領域の研究者が力を合わせる必要があります。今回の勉強会は、京都大学文学研究科応用哲学・倫理学教育研究センター（CAPE）、一般財団法人 公正研究推進協会（APRIN）との共催となり、その取り組みの第一歩となります。



日本の研究不正は研究者あたりの発生件数で言えば必ずしも上位ではありませんが、一研究者当たりの撤回論文数のランキングでは上位を占めており、大きな事件が多い国という印象を与えています。

2014年に相次いで発覚した大きな研究不正事件（ディオバン事件やSTAP細胞問題）は、広く社会における科学への信頼を失墜させましたが、今日においても研究不正の事案は後を絶ちません。事件以降、研究公正推進室の設置（文部科学省）、WEBサイト「研究公正ポータル」の開設（国立研究開発法人 科学技術振興機構（JST）、国立研究開発法人 日本医療研究開発機構（AMED）、日本学術振興会）、研究公正担当者のネットワーク（RIOネットワーク、AMED）といった、研究公正の推進に係る活動が継続的に実施されるようになりました。その一方で、個別の研究不正事案の取り扱いは各研究機関に委ねられており、その対応には大きな差があるのが現状です。

また、世界の研究不正による経済的損失はおよそ3兆円\*にのぼるともいわれており、世界的にも研究不正をいかになくすかは重要な問題となっています。

ここでは、日本における近年の研究不正や疑わしい研究活動の実例をもとに、その背景にあるメカニズムについて本学の田中智之教授が解説します。さらに、学術論文の出版規範を規定し、世界の学術誌の編集者や出版社への助言を行う機関「Committee of Publication Ethics（COPE）」の評議員でもある南オーストラリア大学 Tracey Bretag 博士に研究不正を未然に防ぐために研究者が心がけることについて講演いただき、参加者全員で「責任ある研究活動とは何か」について考えを深めます。

実施概要は次の通りです。

## 「責任ある研究活動とは」実施概要

- 開催日時 : 10月1日(火) 17時~19時  
開催場所 : 京都大学文学部校舎地下会議室  
内 容 : テーマ「責任ある研究活動とは」  
17:00~ 国内ミスコンダクト事例とその背景(京都薬科大学)  
17:45~ The Principles of Responsible Conduct of Research.  
(Dr. Tracey Bretag, Univ. South Australia) ※逐次通訳  
18:30~ 質疑応答  
参加者 : 大学教員などの指導的立場にある研究者、若手研究者、大学院生、リサーチアド  
ミニストレーター  
参加方法 : 会場内受付で参加受付(事前申込不要)  
参加費 : 無料  
共 催 : 京都薬科大学  
京都大学文学研究科応用哲学・倫理学教育研究センター(CAPE)  
一般財団法人 公正研究推進協会(APRIN)  
後 援 : 国立研究開発法人 日本医療研究開発機構(AMED)

### ■トータルコーディネーター

京都薬科大学 薬理学分野 田中 智之教授

薬理学分野の炎症・アレルギー領域の実験科学を専門としています。2015年に日本薬学会の年会シンポジウムで研究公正について取り上げ、以降、実験科学に従事する研究者の立場から研究公正の推進に取り組んでいます。研究公正の教育に携わる教員の資料集としてWebサイト「誠実な生命科学研究のために」を作成。また、2018年には大学における研究公正教育のテキストとして「科学者の研究倫理 化学・ライフサイエンスを中心に」(田中智之、小出隆規、安井裕之、東京化学同人)を刊行しています。

### ■ゲスト

南オーストラリア大学 Tracey Bretag 博士

世界中の論文審査を行うジャーナル編集者や出版社への助言を行う機関「Committee of Publication Ethics (COPE)」の評議員でもあり、アカデミアにおける研究公正をテーマに、活発に研究活動を進められています。

- ※ Baker M., "Irreproducible biology research costs put at \$28 billion per year" Nature,  
[http://www.nature.com/news/irreproduciblebiology-research-costs-put-at-28-billion-per-year-](http://www.nature.com/news/irreproduciblebiology-research-costs-put-at-28-billion-per-year-1.17711)  
1.17711(2015.6.9)

[報道に関するお問い合わせ先]

京都薬科大学 事務局 企画・広報課  
担当:川勝、谷垣

〒607-8414 京都市山科区御陵中内町5  
TEL:075-595-4691 FAX:075-595-4750  
E-mail:kikaku@mb.kyoto-phu.ac.jp